

翁長知事の「陳述書」

写真は朝日新聞 12月3日朝刊による。米軍基地問題をめぐり国から訴えられた沖縄県の翁長雄志知事が、法廷に立った。12月2日、裁判所前に集まった支援者に挨拶する知事。

県と国が争う代執行訴訟で、翁長知事が福岡高裁那覇支部に提出した「陳述書」全文を読んだ。たいへん長い「陳述書」であるが、こころに迫るものがあった。沖縄の苦難の歴史を踏まえ、「沖縄のこころ」を説く陳述は、明快で説得力に富む。目次だけでも紹介しよう。



- 1 知事に立候補した経緯と公約
- 2 沖縄について
 - (1) 沖縄の歴史
 - (2) 沖縄の将来像
- 3 米軍基地について
 - (1) 基地の成り立ちと基地問題の原点
 - (2) 普天間飛行場返還問題の原点
 - (3) 「沖縄は基地で食べている」 基地経済への誤解
 - (4) 「沖縄は莫大な予算をもらっている」 沖縄振興予算への誤解
 - (5) 基地問題に対する政府の対応
 - (6) 県民世論
- 4 日米安全保障条約
- 5 前知事の突然の埋立承認
- 6 前知事の埋立承認に対する疑問-取消しの経緯
 - (1) 仲井真前知事の埋立承認についての疑問
 - (2) 第三者委員会の設置と国との集中協議
 - (3) 承認取消しへ
 - (4) 政府の対応
- 7 主張
 - (1) 政府に対して
 - (2) 国民、県民、世界の人々に対して
 - (3) アメリカに対して

(2015年12月12日)